

# ストライプ柄のイメージ

## A Study of the Images of Striped Patterns

伊藤 きよ子, 日下部 信 幸\*

Kiyoko Itoh and Nobuyuki Kusakabe\*

### 1. 緒 言

衣服を選択する際の重要な要素のひとつに、衣服のもつイメージがある。衣服が人に与えるイメージは、衣服のデザインによるところが大きいですが、柄や色も大きな影響を与えていると考えられる。

配色した柄のイメージについては、これまでに数多くの報告がなされている。それらは1点ずつ提示してイメージの測定をおこなったもの<sup>1)~3)</sup>、一対比較法を用いたもの<sup>4)</sup>、両者を用いたもの<sup>5),6)</sup>など、その研究手法はさまざまである。しかし、無地の試料と柄のついた試料を比較する手法を用い、色のみ、つまり無地の衣服のイメージと、色と柄の2つの要素をもつ衣服のイメージがどのように異なるかを研究した例はみあたらない。

そこで本報では、基礎的研究として基本的な衣服柄であるストライプ柄を取り上げ、色とストライプ幅の異なる試料を紙を用いて作成し、無地とのイメージ差について検討した。

### 2. 方 法

#### 2-1 試料の作成

ストライプ柄の試料は白(N9)との2色配色とし、カラーコピー機(富士ゼロックス A COLOR 635)を用いて作成した。色は青系と赤系で、明度の低い色を作成後、濃度の調整を行うことにより各色の明度を3段階に変化させた。この操作により、赤系はやや色相が異なったものの、今回の検査にはさほど影響はないものと判断し、表1に示すA1からA6の6種の

---

\* 愛知教育大学教授

色を試料の色として設定した。

ストライプ幅は0.5cm間隔で0.5cm(B 1), 1.0cm(B 2), 1.5cm(B 3), 2.0cm(B 4), 2.5cm(B 5), 3.0cm(B 6)の6段階に設定した。したがってストライプ柄の試料は計36種類となる。

また、色自体のイメージの測定と、ストライプ柄のイメージを測定する際の比較試料とするために、無地の試料も6種類作成した。

試料の大きさはコピー機で作成可能な最大の大きさ40.5cm×28.5cmである。

2-2 実験方法

各試料のイメージは、無地すなわち色自体のイメージはSD法により求め、ストライプ柄は無地の試料を比較試料として、それとの比較により求めた。評価は5段階評価とし、表2に示す15対のイメージ用語を用いて行った。なお、用語の選定にあたっては、先に報告されている論文<sup>1)~3),5)</sup>を参考にした。被験者は女子大学生63名である。

試料はJIS L 1072に準じて設置したボードに、マグネットで張り付け提示した。このとき、着席した被験者の眼球と試料の中心とがほぼ同じ高さとなるよう配慮した。またストライプ柄の試料を提示する場合は、図1に示すように比較試料との間を15.0cmあけて提示した。なお順序効果や位置効果を排除するため、試料はランダムに提示し、比較試料とストライプ柄の試料の左右の位置もランダムとした。被験者から試料までの距離は3mとし、背景はN4.5の色画用紙と布で覆った。

実験室の照明は白色蛍光灯を用い、外部からの光はブラインドとカーテンで遮断した。実験室の照度は約1000ルクスであった。

3. 結果と考察

3-1 無地の試料のイメージ

図2に無地の試料を用いて各色のイメージを測定した結果について示した。

表1 色彩

色	J I S 記号	記号
青系	5PB7/6	A 1
	5PB5/8	A 2
	5PB3/6	A 3
赤系	7.5PB8/4	A 4
	10PB6/8	A 5
	5R4/8	A 6
白	N 9	

表2 イメージ用語と評価尺度

	非	比	ど	比	非	
	常	較	で	較	常	
			ち			
			も			
			ら			
			な			
			い			
			に			
			的			
			に			
活動的な	1	2	3	4	5	しとやかな
ぼやけた	1	2	3	4	5	はっきりした
美しい	1	2	3	4	5	醜い
個性的な	1	2	3	4	5	平凡な
繊細な	1	2	3	4	5	大胆な
好き	1	2	3	4	5	嫌い
軽い	1	2	3	4	5	重い
冷たい	1	2	3	4	5	あたたかい
痩せた	1	2	3	4	5	太った
柔らかい	1	2	3	4	5	かたい
あか抜けた	1	2	3	4	5	やぼったい
暗い	1	2	3	4	5	明るい
快	1	2	3	4	5	不快
弱い	1	2	3	4	5	強い
派手な	1	2	3	4	5	地味な

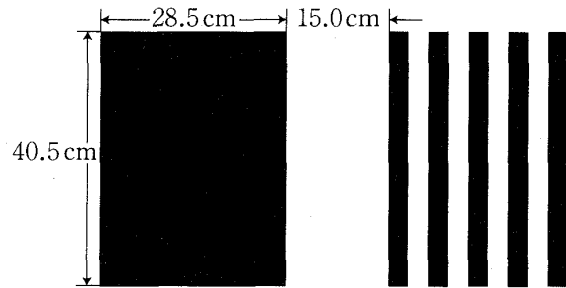


図1 ストライプ柄と比較試料の提示方法

青系、赤系共に明度の低い色(A3, A6)は「強い、はっきりした、大胆な、かたい、重い」イメージをもたれ、明度が高くなるほど逆のイメージに近づいている。このことから、これらの用語は明度によりイメージの差が表れやすい用語と考えられる。また、青系のA1からA3は「冷たい」、赤系のA4からA6は「あたたかい」イメージとなり、色相による差がはっきりと表れた。「好き、快、美しい」といったイメージはA6を除く5種類の色で得られているが、その中でも明度の高いA1, A4はそれらの評価が高い傾向にあった。

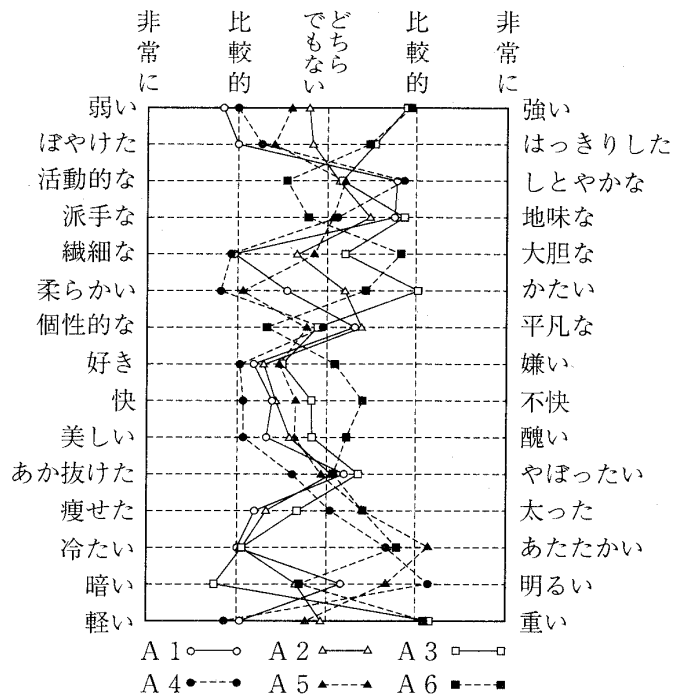


図2 各色のイメージ(無地)

3-2 ストライプ柄のイメージ

表3はストライプ柄のイメージについて因子分析を行い、バリマックス回転後の結果を示したものである。各被験者のイメージ評価値を用いて分析を行ったため、第4因子までの累積寄与率は55.86%となった。

表3 因子負荷量

		I	II	III	IV
弱	い	0.8300	0.0632	0.1070	0.0507
ぼやけた	いた	0.8184	-0.0246	-0.0073	0.0061
活動的な	な	-0.7764	0.0263	0.0346	0.0678
派手な	な	-0.7163	0.0686	-0.0148	0.3165
繊細な	ない	0.6985	0.1774	0.3283	-0.0037
柔らかい	ない	0.6749	0.1770	-0.1968	0.3769
個性的な	ない	-0.5918	0.1294	-0.0124	0.1838
好き	き	0.0843	0.8367	0.0763	-0.0097
快	き	0.0353	0.8176	0.0281	0.0998
美しい	い	0.0156	0.7926	0.0865	0.0857
あか抜けた	いた	-0.2856	0.4875	0.1701	0.2409
痩せた	た	0.0993	0.1821	0.7391	0.0066
冷たい	い	-0.1606	-0.0332	0.4064	-0.3089
暗い	い	0.2308	-0.2847	0.0312	-0.5224
軽い	い	0.2832	0.2839	0.3008	0.3147
寄与率(%)		26.85	16.80	6.70	5.51
累積寄与率(%)		26.85	43.65	50.35	55.86

第1因子では「弱い、ぼやけた、活動的な、派手な、繊細な、柔らかい」などが高い因子負荷量を示した。そこで第1因子は明瞭・活動の因子とした。第2因子は「好き、快、美しい」の因子負荷量が高いことから、評価の因子とした。第3因子は「痩せた」の因子負荷量が高く、感覚の因子、第4因子は「暗い」の因子負荷量がやや高く、明るさの因子とした。このように、

ストライプ柄は明瞭・活動, 評価, 感覚, 明るさの4因子で表すことができた。なお, 「軽い-重い」は因子負荷量が低く, 単純に因子構造をとらえる用語とはならなかった。

小菅ら<sup>1)</sup>は, 2色配色のストライプ柄のイメージを軽快性(「暖かい, 明るい, 軽快な」など), 明瞭性(「強い, 大胆な, はっきりした」など), 単純性(「スマートな, 好きな」など)の3因子で表し, 加藤ら<sup>2)</sup>は力量(「柔らかい, 強い, はっきり」など), 活動(「地味な, 活動的な」など), 評価(「調和, 好き」など), 暖かさ(「暖かい」)の4因子で表している。このように, 小菅らならびに加藤らが得た因子と筆者らの得た因子は類似しており, 今回得た因子構造は妥当なものとする。

次に各ストライプ柄のイメージについて述べる。

今回, 因子分析を各被験者の評価値をもとに行ったため, 因子得点からそれぞれのストライプ柄のイメージを比較するのは困難であった。そこで, イメージ用語別に色とストライプ幅を要因として二元配置の分散分析を行い, 各ストライプ柄のイメージを比較することにした。

分散分析の結果, いずれの用語においても2要因に有意水準5%ないし1%で有意差が認められたので, まずストライプ柄の色について対比較を行ってみた。表4はその結果である。表頭の数字は色の組み合わせを表し, 例えば1-2はA1とA2で対比較をしたことを示している。また表側の用語は片側のみを示した。

表4 ストライプ柄の色間における対比較

用語 \ A	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	2-3	2-4	2-5	2-6	3-4	3-5	3-6	4-5	4-6	5-6
弱い	**	**		**	**	**	**		**	**	**		**	**	**
ぼやけた	**	**		**	**	**	**	**	**	**	**		**	**	**
活動的な	**	**		**	**	**	**		**	**	**		**	**	**
派手な	**	**		**	**	**	**		**	**	*	**	**	**	**
繊細な	**	**		**	**	**	**		**	**	**		**	**	**
柔らかい	**	**	*	*	**	**	**	**	**	**	**		**	**	**
個性的な	**	**		**	**	*	**		**	**		**	**	**	**
好き			**	**	**		*	**	**			**			
快				**	**			*	**			**		**	
美しい				*	**			*	**			**			
あか抜けた	*	**			**		**			**	*		**	**	
痩せた			*	**			**	**		**	**			**	**
冷たい	*	**	**	**	**		**	**	**	**	**	**		*	*
暗い			**	**	**										
軽い	**	**		**	**		**		**	**			**	**	**

\*\* :  $p < 0.01$  \* :  $p < 0.05$

「冷たい」と, 因子分析で明瞭・活動の因子の負荷量が高く表れた「弱い, ぼやけた, 活動的な, 派手な, 繊細な, 柔らかい, 個性的な」の用語において, 有意水準1%ないし5%で有意差の認められる組み合わせが多くなっている。しかし同程度の明度をもつA1とA4, A2とA5, A3とA6の組み合わせでは, 上記の用語のうち「冷たい」以外は有意差が表れにくいことがわかった。したがって明瞭・活動の因子負荷量の高い用語は, 明度の違いによりストライプ柄と無地とのイメージ差が異なりやすい用語といえる。

また、評価の因子において負荷量の高かった「好き、快、美しい」は、A 2とA 5、A 3とA 6のように色相の違いによって有意差の認められやすい用語であると考えられる。なお、15の用語のなかでも「暗い」は色間で有意差のあまり認められない用語であることから、明るさに対するストライプ柄と無地とのイメージ差は、色が異なってもほとんど変わらないことがわかる。

これらの結果を踏まえ、図3からストライプ柄の色によるイメージをみると、明度の低いA 3とA 6のストライプ柄は無地の試料より「強い、はっきりした、活動的な、派手な、大胆な、かたい、個性的な」イメージをもたれており、明度が高くなるほど無地とのイメージ差が小さくなることがわかる。また、どのストライプ柄も無地に比較し「好き、快、美しい」の評価がやや高いが、その傾向は赤系より青系のストライプ柄のほうがわずかに高かった。「冷たいーあたたかい」の用語では、青系のストライプ柄は無地よりさらに「冷たい」イメージと評価され、赤系もストライプ柄のほうが無地より一層「あたたかい」イメージをもつと評価された。「暗いー明るい」では、いずれのストライプ柄も無地より「明るい」と評価されている。これは、2色配色の一方の色である白がN 9と明度の高いことが原因と思われる。

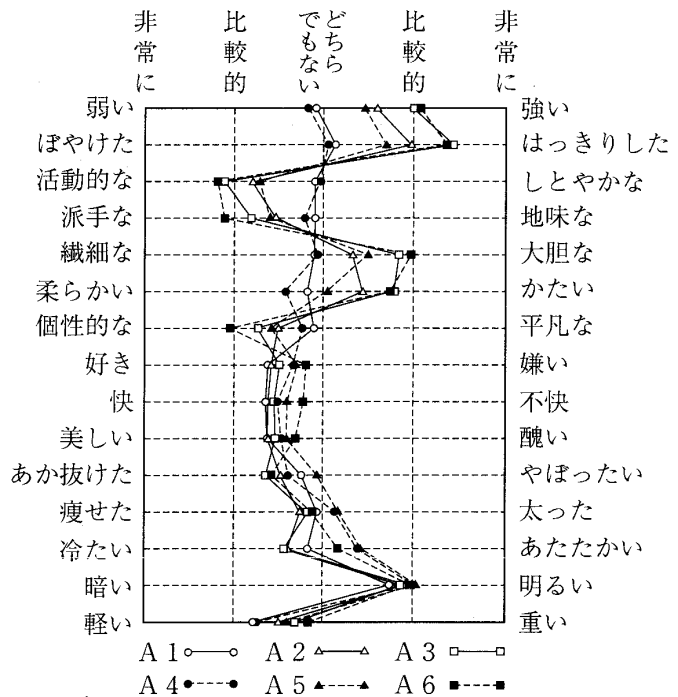


図3 ストライプ柄の色によるイメージ

次にストライプ柄の幅間で対比較した結果を表5に示した。「繊細な、痩せた」の用語は、ほとんどの組み合わせにおいて有意差が認められた。したがって、これらの用語はストライプ幅により無地とのイメージ差が異なりやすい用語といえる。またB 1とB 6、B 2とB 6のようにストライプ幅の差が大きい組み合わせでは、各用語において有意差が認められやすく、B 1とB 2、B 3とB 4、B 4とB 5といった、両者のストライプ幅の差が0.5cmと小さい組み合わせの場合は、有意差が表れにくいことがわかった。しかし、B 2とB 3すなわち1.0cmと1.5cmの間では、特に明瞭・活動の因子負荷量の高い用語で有意差が認められた。また、これらの用語ではストライプ幅の細いB 1あるいはB 2と、B 3～B 6の間には有意差が認められるが、B 3、B 4、B 5、B 6の幅間では有意差が表れにくくなっている。以上のことから、明瞭・活動の因子負荷量の高い用語におけるイメージの差は、ストライプ幅1.0cm以下と1.5cm以上との間で表れやすいことがわかった。

表5 ストライプ柄の幅間における対比較

用語 \ B	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	2-3	2-4	2-5	2-6	3-4	3-5	3-6	4-5	4-6	5-6
弱い	*	**	**	**	**	**	**	**	**			**		**	**
ぼやけた		**	**	**	**	**	**	**	**						
活動的な		**	**	**	**	**		**	**					**	
派手な		**	**	**	**	**	*	**	**						
繊細な	*	**	**	**	**	**	**	**	**	*	**	**		**	**
柔らかい				*	**	*	*	**	**						
個性的な		**	**	**	**				**						
好き			*	**	**		*	**	**			**		**	*
快					**			*	**			**		*	
美しい					**			*	**			**		*	
あか抜けた					**				**			**		*	
痩せた	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**	**
冷たい					*										
暗い															
軽い		*	**	**	**		**	**	**		*	**		**	**

\*\* : p < 0.01 \* : p < 0.05

この結果をもとに図4から各ストライプ幅のイメージをみると、ストライプ幅の太いB3, B4, B5, B6は無地よりも「強い、はっきりした、活動的な、派手な」イメージをもつと評価されることがわかった。また、ストライプ幅の細いB1とB2は、無地より「繊細な」イメージをもたれたのに対し、幅の太いB3~B6は無地より「大胆な」イメージと評価されており、幅が太くなるほどそのイメージは強くなった。「痩せたー太った」の用語においては、B1~B3は無地より「痩せた」イメージと評価され、幅が細いほどその評価は高くなっている。逆にB4~B6は「太った」と評価されており、ストライプ幅が太くなるほど、その評価は高いといえる。

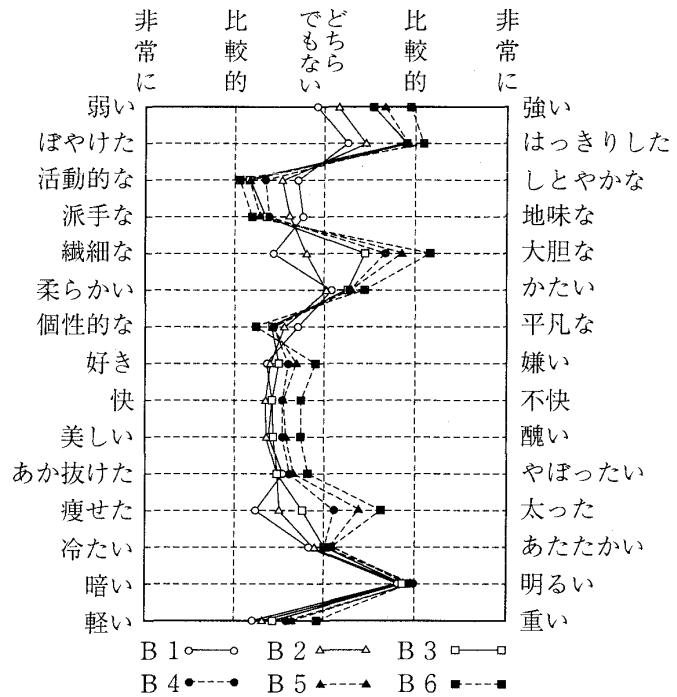


図4 ストライプ柄の幅によるイメージ

#### 4. 要 約

紙を用いて色と幅の異なる2色配色のストライプ柄の試料36種類を作成し、無地の試料と比較したときのイメージ差について検討した。その結果は以下のようなものである。

- 1) ストライプ柄のイメージは明瞭・活動の因子, 評価の因子, 感覚の因子, 明るさの因子

の4因子で表される。

2) ストライプ柄の試料は、色の明度が低いものほど、無地の試料に比較し「強い、はっきりした、活動的な、派手な、大胆な、かたい、個性的な」イメージと評価され、明度が高くなるほど無地とのイメージ差は小さくなる。

3) 評価の因子負荷量が高い「好き、快、美しい」の用語は、色相の違いにより有意差の認められやすい用語であり、赤系より青系のストライプ柄のほうが、無地の試料より「好き、快、美しい」という評価がやや高い。

4) 「繊細な-大胆な」「瘦せた-太った」の用語は、ストライプ幅の違いにより無地とのイメージ差が異なりやすい用語である。

5) 明瞭・活動の因子負荷量が高い用語では、ストライプ幅1.0cm以下と1.5cm以上との間でイメージ差が表れやすい。

以上、無地の試料と比較することによりストライプ柄のイメージを検討してきたが、今回は試料として紙を用いており、衣服にみられる立体感や材質感は考慮されていない。これを今後の検討課題とし、さらに研究を積み重ねていく必要があると考える。

本研究を進めるにあたり、ご協力いただいた愛知教育大学学生諸姉に感謝いたします。

#### 参考文献

- 1) 小菅啓子, 小林茂雄: 繊維製品消費科学, 31, 38~45 (1990)
- 2) 加藤雪枝, 梶山藤子: 繊維製品消費科学, 25, 167~173 (1984)
- 3) 吉岡徹: 繊維製品消費科学, 31, 250~256 (1990)
- 4) 石井真人, 神宮寺勝紀: 繊維製品消費科学, 35, 499~504 (1994)
- 5) 吉岡徹: 家政学雑誌, 36, 793~802 (1985)
- 6) 高森壽: 日本家政学会誌, 45, 47~53 (1994)